

平成22年度病害虫発生予報第5号（水稻特集）の発表について

向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報については、以下のとおりです。

葉いもち及びセジロウンカの発生が多くなっています。

葉いもちの初発生時期の遅延や発病程度の低下などを期待した育苗箱施用剤の使用が普及していますが、剤の残効期間に留意の上、本田の状況をよく把握して、必要に応じて補完防除を実施してください。

葉いもちの発生が多く上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は、穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃い期に薬剤防除を実施してください。

また、株元にセジロウンカの成虫及び幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

病害虫防除に関する留意点

- 病害虫防除を効果的に実施するためには、病害虫の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病害虫の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- なお、薬剤防除を実施する場合には、薬剤抵抗性を獲得した病害虫が確認されていることに留意の上、適切な薬剤を選択するとともに、病害虫が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布の時期に留意するとともに、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

水稻

- 葉いもちの発生は、東北の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北海道、甲信、東海、近畿、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。葉いもちの初発生時期の遅延や発病程度の低下などを期待した育苗箱施用剤の使用が普及していますが、剤の残効期間に留意の上、本田の状況をよく把握して、必要に応じて補完防除を実施してください。
- また、葉いもちの発生が多く上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は、穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃い期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **紋枯病**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、北東北及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。

前年に発病が多い場合は、本病が多発する可能性があるので注意が必要です。本病は病勢が少しづつ進展することから、発生がある程度認められてからでも薬剤防除を行うことが可能です。穂ばらみ期から出穂期に発生を認めた場合は、発生状況に注意して適期に薬剤防除を実施してください。多発時や出穂期以降に病勢の進展が懸念される場合は、穂揃い期頃の追加防除を実施してください。

- ・ **ニカメイガ**の発生は、北陸及び近畿の一部地域で「多い」、北海道の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫は局所的に多発する場合があるので、発生状況に応じて薬剤防除を実施してください。

- ・ **イチモンジセセリ**の発生は、東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、関東及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

幼虫は葉をつづりあわせるので薬剤がかかりにくくなります。本田の観察を行い幼虫の早期発見に努めるとともに、発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **フタオビコヤガ**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、東北、南関東、東海、近畿及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本田の観察を行い幼虫の早期発見に努めるとともに、発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **コブノメイガ**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海、近畿、中国及び四国の一地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫の本田での発生状況を把握するとともに、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報を参考に若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。

- ・ **セジロウンカ**の発生は、東海、近畿、中国及び四国の一地域で「多い」又は「やや多い」、関東及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本田の見回りの際には、稲の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

- ・ **トビイロウンカ**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、中国及び四国の一地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫は水田に侵入後、急激な密度上昇により被害を起こします。本田内を注意深く観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。また、病害虫防除所等で発表される今後の飛来情報に留意するとともに、本田での発生状況に十分注意してください。

- ・ **斑点米カメムシ類**の発生は、東海の一部地域で「多い」、北東北及び四国の一地域で「多い」又は「やや多い」、北海道、関東及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫の防除は、休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草管理が基本であり、出穂期の10日前までに本田周辺の草刈りを終了させてください。出穂期直前の草刈りは、本害虫の本田への飛び込みを助長し、被害を増加させるおそれがあるので、避けてください。

薬剤防除は穂揃い期とその7～10日後の2回実施が標準的です。薬剤防除時期は斑点米カメムシ類の発生種が地域によって異なるので、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成 22 年 7 月 8 日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

発表実績なし。

注意報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
7月8日	埼玉県	水稻	フタオビコヤガ
7月9日	青森県	水稻	葉いもち
7月13日	秋田県	水稻	葉いもち
7月13日	三重県	水稻	穂いもち
7月14日	福島県	水稻	葉いもち
7月14日	滋賀県	水稻	ニカメイガ
7月15日	北海道	りんご	モモシンクイガ
7月15日	長野県	水稻	葉いもち
7月15日	鳥取県	水稻	穂いもち
7月15日	徳島県	早期水稻	斑点米カメムシ類
7月16日	和歌山県	水稻	セジロウンカ
7月20日	和歌山県	かき	果樹カメムシ類
7月21日	東京都	なし、りんご等	チャバネアオカメムシ
7月21日	神奈川県	なす、トマト等	オオタバコガ

特殊報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
7月8日	山口県	きく	キクえそ病
7月9日	福井県	すいか	スイカえそ斑点病
7月9日	福岡県	きく	キク茎えそ病
7月16日	岡山県	茶	ミカントゲコナジラミ
7月20日	熊本県	トルコキキョウ	チャノキイロアザミウマ

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 北東北：青森県、岩手県、秋田県
- 南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 北関東：茨城県、栃木県、群馬県
- 南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
- 北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
- 南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

（平年値は過去10年間の平均）

平成22年度病害虫発生予報の発表予定

第1号：4月22日（木曜日）

第2号：5月20日（木曜日）

第3号：6月17日（木曜日）

第4号：7月8日（木曜日）

第5号：7月22日（木曜日）

第6号：8月12日（木曜日）

第7号：9月9日（木曜日）

第8号：10月7日（木曜日）

第9号：11月11日（木曜日）

第10号：2月17日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班・黒谷、金武

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>